

指導資料



鹿児島県総合教育センター

社会 第114号

- 中学校，特別支援学校対象 -

平成22年4月発行

思考力・判断力・表現力等の育成を目指した日本の諸地域の学習展開例～単元全体を見通した課題解決的な学習を通して～

中学校の学習指導要領解説社会編（平成20年9月，以下「社会編」という）の地理的分野の改訂の要点の一つとして，我が国の国土に対する認識を一層深めるための動態地誌的な学習による国土認識の充実が挙げられた。ここでいう動態地誌的な学習とは，それぞれの地域の特色を自然や産業の特色などの項目ごとに網羅的，並列的に扱うのではなく，一つの事象を中核として，それを他の事象と有機的に関連付けて地域の特色を追究する学習のことをいう。

こうした動態地誌的な学習による国土認識の充実を図るために，日本を幾つかの地域に区分し，それぞれの地域的特色について様々な考察の仕方を基にして，地域の特色をとらえさせる学習（以下「日本の諸地域の学習」という）が加えられた。

一方，学校教育法では，「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力（略）」を育成することが重要であることが述べられている。

また，社会編には，「地域の特色を追究するための適切な課題を設定し，様々な資料を

適切に活用して地域的特色を考察し，追究した過程や結果を適切に表現するといった学習活動」を生徒に取り組ませることが大切であると述べられている。

これらのことから，日本の諸地域の学習では，単元全体を見通した課題解決的な学習を行い，思考力・判断力・表現力等を育成していきたい。

そこで，本稿においては，日本の諸地域の学習の展開例について，単元全体を見通した課題解決的な学習を通して述べる。

1 日本の諸地域の学習を進める上での留意点

社会編では，「日本の諸地域について，日本を幾つかの地域に区分し，それぞれの地域について，自然環境を中核とした考察，歴史的背景を中核とした考察，産業を中核とした考察，環境問題や環境保全を中核とした考察，人口や都市・村落を中核とした考察，生活・文化を中核とした考察，他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基にして，地域の特色をとらえさせる。」と述べられている。

このことから，以下の点に留意し，日本の諸地域の学習を進めていきたい。

- (1) 学習する内容が，特定の考察の仕方に偏らないように，上記の から で示した考察の仕方を日本の諸地域の学習全体を通してすべて取り扱う。
- (2) 日本の地域区分については，(1)を踏まえ，最低でも日本を七つの地域（九州地方，中国・四国地方，近畿地方，中部地方，関東地方，東北地方，北海道地方）に区分して学習を進める必要がある。
また，指導の観点や学校所在地の事情などを考慮して七つよりも多くの地域に区分することも考えられる。その際，広い視野に立って我が国の国土の地域的特色を考察し理解させるといふ地理的分野の目標を踏まえ，地域区分を細分化しすぎないようにすることが大切である。

- (3) 指導に当たっては，学習する地域ごとに から で示した考察の仕方の中から，地域の特色を端的に示す地理的事象を一つ選択し，それを中核として学習を展開する。その際，中核とした地理的事象は，他の事象ともかかわり合って成り立っていることに着目して，それらを関連付けて地域的特色を追究する学習活動を展開することが大切である。

こうした留意点を踏まえ，次に具体的展開例について，中部地方の学習を通して述べる。

2 具体的展開例～中部地方の学習を通して

- (1) 産業を中核とした考察の設定

中部地方は，工業面においては，工業

製品出荷額が全国 1 位（2006年）の中京工業地帯がある。また，静岡県を中心とした東海工業地域も工業が盛んな地域の一つである。一方，農業面においても，日本国勢図会の統計資料によると，米の生産は，新潟県が全国 2 位（2008年）である。その他，山梨県では，ぶどうやももの生産が全国 1 位（2007年），長野県では，レタスの生産が全国 1 位（2007年）など果樹や野菜の生産も盛んである。このように中部地方は，全国的にみて，工業や農業の産業の盛んな地域であることが分かる。

このような特色をもつことから，前述した様々な考察の仕方のうち，の産業を中核とした考察を基に中部地方の地域的特色をとらえることにする。

- (2) 単元の指導計画例

単元全体を見通した課題解決的な学習を行うために，例えば表のような単元の指導計画を作成したい。

表 単元の指導計画例（中部地方）

時数	主 な 学 習 活 動
1	○ 単元オリエンテーション ・ 中部地方を概観する。 ・ 単元全体を見通した学習課題の設定（例～「全国的にみて，各産業に占める中部地方の割合はなぜ高いのだろうか。」） ・ 個人で調べてみたいテーマの設定（例～「新潟県を中心にした日本海側では，なぜ稲作が盛んなのか。」等）
2	○ 個人テーマについて調べる。
1	○ 個人テーマについて調べたことをまとめる。
2	○ まとめたことを発表し合い，気付いたことをまとめる。
1	○ 単元全体を見通した学習課題の解決を図る。

次に，この指導計画を基にした学習の展開例について述べる。

ア 単元全体を見通した学習課題と個人テーマの設定

第1時は単元オリエンテーションとして、中部地方の地域的特色を概観することを通して、単元全体を見通した学習課題の設定を行う。

具体的には、諸資料から、中部地方は工業や農業が盛んな地域であることを理解させる。例えば、日本国勢図会（2009/10）を基に作成した図1の資料を活用して、全国的にみて、愛知県を中心とした中京工業地帯の工業製品の出荷額が最も多いことを読み取らせるとともに、静岡県を中心とした東海工業地域も工業製品の出荷額が多いことに気付かせたい。その際、地図帳等を活用して、それらの工業地帯・地域の位置についても確認させたい。

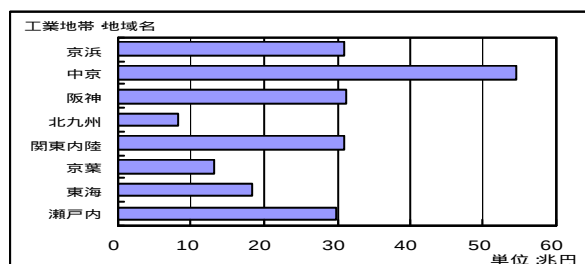


図1 工業地帯・地域別工業製品出荷額(2006年)

次に、地図帳や日本国勢図会の資料等を活用して、新潟県を中心とした日本海側では稲作が、山梨県や中央高地の長野県では、ぶどうやもも、りんごなどの果樹、レタスやはくさいなどの野菜の生産が盛んであることを読み取らせる。

これらの資料から読み取った事実を基に「全国的にみて、各産業に占める中部地方の割合はなぜ高いのだろうか。」という単元全体を見通した学習課題の設定を行う。その上で、生徒一人一人に単元全体を見通

した学習課題の解決を図らせるための個人テーマの設定を行う。その際、生徒一人一人に自ら関心をもったテーマを出させ、それらを類型化することで幾つかのテーマに焦点化し、課題の解決を図らせたい。

具体的には、「新潟県を中心にした日本海側では、なぜ稲作が盛んなのか。」、「愛知県や静岡県では、なぜ工業製品の出荷額が多いのか。」、「山梨県や中央高地の長野県では、なぜ野菜や果樹の生産が盛んなのか。」などのテーマに焦点化することが考えられる。このような個人テーマの課題解決を通して、単元全体を見通した学習課題の解決を図っていききたい。

なお、学習課題を設定する際に使用する資料については、教科書や地図帳、資料集だけでなく、小学校や高等学校の教科書、インターネットなどからの資料の活用も考えられる。生徒に「なぜ～だろう」という疑問をもたせる上でも、適切な資料の収集・選択が必要である。

イ 個人テーマの追究

第2時以降は、個人テーマについて諸資料を基に追究させる。例えば、「山梨県や中央高地の長野県では、なぜ野菜や果樹の生産が盛んなのか。」という個人テーマを追究させる。その際、名古屋等の大消費地との位置関係や長野県、山梨県の気候のグラフを地図帳等から読み取らせることで、「中央高地の野菜や果樹の生産が盛んな理由は、名古屋等の大消費地に近いからではないか。」といった地理的な位置関係や「レタスやはくさいなどの野菜の生産が盛んな理由は、夏の涼しい気候を生かして、

他の産地と収穫時期をずらして出荷しているからではないか。」といった気候条件等との関連に気付かせたい。このように産業を中核として追究する学習活動を行う中で、他の事象（他地域との結び付きや自然環境など）と関連させ、学習した地域の特色を総合的にとらえさせることが大切である。

なお、課題について追究をさせる際には、次のようなワークシートを作成、工夫したい（図2）。

- ・ 追究する際の参考となる資料を示す。
- ・ 考察の根拠となる資料を明記できる欄を設ける。

このようなワークシートの工夫を行うことで、生徒は追究した結果を根拠を大切にしながらまとめることができる。

また、社会編には「地図や統計などの各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する。」と述べられている。このことから、教師は諸資料から読み取った事実を基に、社会的事象の意味、意義や特色、事象間の関連などに留意して、追究した結果を図2のワークシートにまとめるように指導していくことが大切である。これらは、社会科において言語活動の充実を図る際に留意したい点である。

ウ 学習課題の解決

こうしてまとめた結果を、ジグソー学習やポスターセッションなどを通して、

互いの発表を聞き合い、質問や意見交換などを行わせることで、自分の追究したテーマやそれ以外のテーマの内容について理解を深めさせるとともに、単元全体を見通した課題の解決を図っていきたい。

1 単元全体を見通した学習課題		
全国的にみて、各産業に占める中部地方の割合はなぜ高いのだろうか。		
2 個人テーマ		
山梨県や長野県の中央高地では、なぜ野菜や果樹の生産が盛んなのか。		
3 個人テーマについて調べよう。		
(1) 調べる前にあなたが予想することや知っていることについてまとめよう。		
【参考資料】		
教科書 P ~ , 地図帳 P ~ , 資料集 P ~ , 補助資料「○○○○」		
(2) どのようなことを調べればよいか考えながらまとめよう。		
調べること	内 容	参考資料
・ 中央高地の野菜農家が工夫していること	諸資料から読み取った事実を基に、社会的事象の意味、意義や特色、事象間の関連などに着目してまとめさせる。	地図帳 P の「○○」資料から
・ まとめの根拠となる資料を参考資料等から選び、提示する。 ・ 生徒自ら資料を収集したものを提示しても良い。		
(南さつま市立笠沙中学校 長野素子教諭の実践を基に作成)		

図2 考察の根拠を大切にワークシートの工夫例

学習指導要領の改訂の要点の一つである日本の諸地域の学習の展開例について、単元全体を見通した課題解決的な学習を通して述べてきた。各学校においても、本稿で述べてきた展開例を参考に、学習指導要領の全面实施に向けて、日本の諸地域の学習についての単元の指導計画や授業づくりの準備を進めていただきたい。（教科教育研修課）